

3月12日 1号機格納容器ベント

国会事故調 報告書

1、2号機中央制御室で結成された運転員特別チームのメンバーは、あらかじめヨウ化カリウムの錠剤を服用して待機していた。しかし、いざ許可が下りて実行に移ったものの、その操作は思いの外に難航した。結局、エアー・コンプレッサーを手配するなど、さらに時間が割かれ、ようやく遂行できたのは14時30分であった。

(吉田昌郎東電 1F 所長ヒアリング) 「早くしろということだったんですけど、お聞きのとおり、電源がない、空気弁もないということで、バルブが、その、開閉できない状態で、そうすると、マニュアルでいくしかないんですね。1号機については、もう線量が上がってきたので、非常に厳しい状態で、いただけないと。いろんなやり方考えました。コンプレッサーなんかも、もうその、ガスコンプレッサーを、ベビーコンってちっちゃいやつでやったんですが、あれじゃあ全然動かなかったんで、協力企業さんをお願いして、土木業のほうで作業したりなんか、結局、その、動かすための手間っていうのが、すごくかかりましてですね。

・・・(中略)・・・

だから、みなさんがベント、ベントとおっしゃってるんですけど、現場から言うんですけど、そのベント自体がですね、本当にできてんのかどうかですね、わからない状態です。ですから、もうそこに全力かけてましたから、あの、ディスターブされたとかですね、いう話もあるんですけど、もうパラでも現場でいろいろ考えてやれってんで、指示してやってましたから、邪魔されたっていうよりも、作業そのものが、なかなか進まなかったということですよ。・・・(中略)・・・こっちからすると、必死でやっててあれだったんですよ」

政府事故調 報告書

1号機のD/W 圧力は、3月12日14時30分頃に0.75MPa abs であったところ、同日14時50分頃に0.58MPa abs まで低下し、NHKの映像によっても、1号機の排気筒から白い煙が出ているのが確認できた。そこで、吉田所長は、同日14時30分頃にベントによる放射性物質の放出がなされたと判断し、同日15時18分頃、その旨官庁等に報告した。



PBS Video FRONTLINE | Inside Japan's Nuclear Meltdown



